

長野県埋蔵文化財ニュース

No. 6

1983.10.22

(財)長野県埋蔵文化財センター 岡谷調査事務所 〒394 岡谷市郷田2-7260 ☎0266-24-0522
文化財センター 松塩坑調査事務所 〒399-07 塩尻市広丘高出1977 ☎0263-54-2150



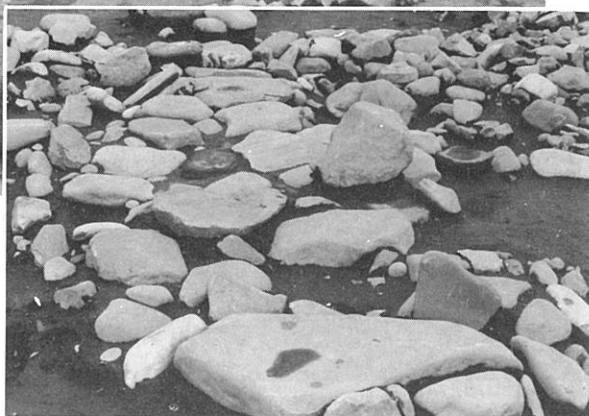
久保田遺跡

—小諸市耳取—

写真上 奥は柄鏡形礫堤住居址

手前は方形周溝墓

下 敷石部を南から見る。



(小諸市教育委員会提供)

久保田遺跡は、小諸市南部の耳取地籍に存し、標高約630mの千曲川の段丘上に位置する。遺跡の南東には、昭和54・55年に調査された宮ノ北遺跡がある。

検出された遺構には、縄文時代中・後期、弥生時代後期末、古墳時代中・後期、平安時代の住居址のほか、石棺、円形・方形周溝墓、土壇、溝がある。

遺物としては、土器・石器・鉄器類のほか、ヒスイ製の大型珠、滑石製垂飾、土偶、勾玉、白玉、石製模造品(剣形)などが出土している。

写真は、柄鏡形礫堤住居址(神村 透先生のご教示による)で、南側に敷石の張り出し部を有し、周囲に

礫をめぐるした特異なものである。規模は、長軸約11m、短軸約9mを測る。内部施設としては、敷石部寄りに炉址(石囲炉)が認められたほか、土壇が検出されている。遺物は、土器片が礫堤部、住居址内いずれからも出土したほか、礫の間、あるいは礫下部から2点の土偶(1点は脚部のみ、もう1点は頭部・胴部のみ)が出土している。また、礫と混在し、凹石、多凹石、石皿などの石器が認められた。

本住居址は、出土土器から、縄文時代後期初頭に位置すると考えている。

(小諸市教育委員会 花岡 弘)

発掘調査紹介

中央道長野線岡谷地区発掘調査速報

柳海途遺跡

国道20号線が塩尻峠に向かって登りはじめるあたり、塩嶺山塊より張り出した崖錐上のやや急な東向き斜面から塚間川扇状地にかけてが柳海途遺跡の範囲である。岡谷市史には「縄文時代中期末葉の土器・石器が国道をはさんでその上下に分布している」と記載されている。

調査は国道より下の約14,530㎡を対象に5月10日から始まり、現在は扇状地部分の調査が大詰めの段階に入っている。層位は、扇状地である上に水田造成が行われているため複雑だが、基本的にはⅠ水田耕土（場所によっては新旧2層ある）、Ⅱ水田造成時の盛土、Ⅲ暗褐色砂質土層、Ⅳ砂混じり黒色土層、Ⅴ褐色砂礫層、Ⅵ褐色砂質土層、Ⅶ青灰色砂礫層となっており、遺物はⅡ層から縄文晩期土器片、弥生後期土器片、土師、須恵器片、打製石斧、石鏃等が混じりあって出土している。



柳海途遺跡の河川の跡

検出された遺構は土壌が1基で、他に河川の跡がある。

土壌は4m×1.5mの長楕円形を呈し、深さは0.7m。覆土は炭化物を含む黒色土の1層で、上層から縄文晩期水Ⅰ式の浅鉢形土器の大きな破片と焼土が、また底に接して小さな木片が出土している。

Ⅱ層の下に検出された河川の跡はⅤ層、Ⅵ層を切っており、最大幅5.5m、深さ1.2m。わずかに蛇行しながら南流する。覆土黒色土層から少量の土師、須恵器片及び黒曜石片が、また灰色砂層からは木草根などの植物遺体の他、明らかに人の手の加えられた板片（長さ13cm、幅5.5cm、厚さ0.3cm）1点が出土している。

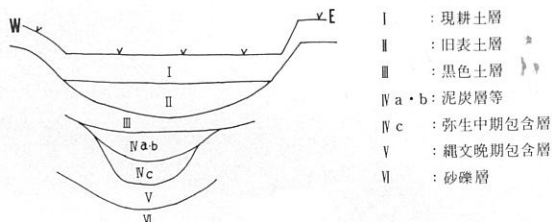
この板片については現在奈良国立文化財研究所に墨書の有無を鑑定依頼中である。

今後は国道に至るまでの傾斜地へ調査の重点を移していく予定である。（調査研究員 唐木孝雄）

中島遺跡A地点(2)

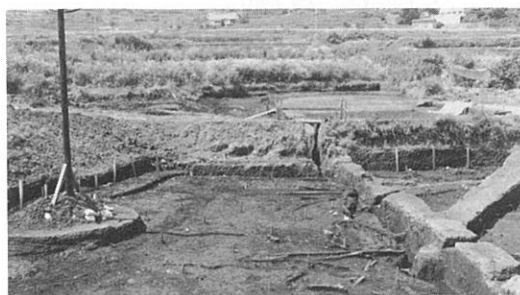
昨年度発掘域の西側 6,980㎡を対象とし4月20日より発掘調査を行なっている。

本年度発掘域東縁の小さな崖は、南々東〜北々西に延びる断層によって形成されている。地震予知連絡会の調査によれば、断層は同一場所に時間を異にして数回起っているらしく、その西側が陥没して15×60m程の低湿地が成立している。層序模式図に示すように遺物包含層はこの低湿地周辺に存在している。



中島遺跡A 層序模式図

低湿地には流路の痕跡は認められず、泥炭層（Ⅳ a層）や植物遺体を含む層（Ⅳ b層）が形成される。木材は落葉のカシ類が多いらしく、草木や種子・葉・昆虫遺骸が存在する。鋭利な工具で切り取った枝や板に混じって平安時代〜中世の土器片が若干出土する。



Ⅳ層上面の木材

Ⅳ c層は弥生時代中期初頭の包含層で、庄の畑式土器を埋納した遺構が検出されている。湿地東縁（断層の縁辺）には遺物集中地点が点々と残されており、氷Ⅰ式土器が主である。これらと断層との関係の追求は今後の課題である。湿地南縁のⅤ層上部からは配石遺構が検出され、氷Ⅰ式土器や水神平式土器が出土している。湿地北縁にも同時期の遺物がまとまっており、土偶頭部も出土したが、本格的な調査はこれからである。

る。低湿地の調査の問題点は別の機会に報告したい。
(調査研究員 百瀬長秀)

膳棚 B 遺跡

本遺跡は塚間川扇状地西端部に位置し、北東と南西を小低地に画された微高地上にある。標高は825mある。調査対象面積は7,250㎡である。

基本層位はⅠ耕土層、Ⅱ褐色土層、Ⅲ黒色土層、Ⅳ砂層、Ⅴ(欠番)Ⅵ黒褐色土層、Ⅶ暗褐色土層となっており、遺物はⅢ・Ⅵ層より縄文時代早期末の土器片(絡条体圧痕文、条痕文など)、挾状耳飾、石鏃、石皿等が出土している。両層より出土する土器には顕著な時期差は認められない。遺構としてはⅢ層より竪穴住居1棟、土壇6基、Ⅵ層からは集石1基、土壇4基が検出され、Ⅱ層と同時期もしくはそれ以降と思われる溝が数本確認されている。

竪穴住居は4.2×4.6mの不整形を呈し、南東から北西に長軸をもつ。炉は認められない。南東辺から北東辺の竪穴外にピットが9個検出されたが、柱穴と認められるのは竪穴の中軸上にある1つのみである。北東壁下に浅い窪みがあり、半欠の石皿と絡条体圧痕文



Ⅰ号住居址南西より

の土器片が検出された。住居内より検出された土器として撚糸文地に絡条体圧痕文の施されたものや、若干の東海系の土器片がある。

Ⅵ層の遺物は南・中・北と3ヶ所に集中して分布する。北のグループと重なって集石がある。集石は散漫な分布を示す10～20cm大の円礫よりなり、挾状耳飾2点、石鏃等の出土がみられる。

調査地の南西端のトレンチにおいて、水田耕土直下の砂礫層より墨書の認められる14.0×3.1×0.3cmの木札が検出された。奈良国立文化財研究所で鑑定していただいたところ平安から鎌倉時代、あるいは若干新しくなるかも知れないとのことである。

(調査研究員 百瀬久雄)

県内各地発掘調査紹介

上郷町高松原遺跡調査概報

遺跡調査団長 佐藤 魁 信

高松原遺跡は下伊那郡上郷町黒田、飯田高等学校を中心とする南北450m、東西250mの範囲にある。伊那谷中位段丘上に南側を流れる野底川によって形成された扇状地の南の突出部に立地し、標高475m～490mの緩い傾斜地形にある。東と南は比高差40m～60mの段丘崖となり、崖下は平坦な沖積段丘面となっている。西は飯田市街地へと続き、北は扇状地が高まって木曾山脈の山裾に達している。遺跡の大半は飯田高校と飯田女子高校テニスコートによって破壊され、南側の段丘縁部は住宅化されている。

1976年飯田高校第2運動場建設に伴う調査で弥生後期住居址35軒をはじめ多くの遺構が検出され、弥生後期の大集落の存在が確認された。1983年飯田高校第2体育館が、遺跡でただ1個所残る第2運動場西の桑園に建設されることになり、上郷町教育委員会によって発掘調査が実施された。調査面積2000㎡。調査された遺構は、住居址13軒(縄文前期末1・縄文中期中葉4、弥生後期座光寺原式7、中島式1)、建物址1、土壇19、柱穴群1がある。



南から見た遺構群の一部

縄文前期末住居址は諸磯c式に比定される深鉢の出土をみ、中期中葉住居址の1軒は埋襲炉をもち、土器は猪沢式・藤内I式に比定され、土壇内出土も同時期が多く、飯田地方では出土例の少ないものとして注目される。土壇5号は深さ125cmの特殊なもので、縄文後期初頭の称名寺式土器の出土をみている。

弥生後期座光寺原式住居址は1辺が小は4.7m、大

は6mの隅丸方形をなし、いずれも地床炉である。土器は甕が少なく、壺の破片が大半を占め、石器は有肩扇状形石器が1～2個、石庖丁が0.5個の割合で出土をみた。中島式住居址は小形となり、1辺が3.6m、埋甕炉をもつ。中島式後半の甕・欠山式台付甕片の出土をみ、石器には有肩扇状形石器1・打製石庖丁4個がある。後期両時代を通じ石鍬の出土はみえていない。

1976年度調査検出の弥生後期住居址35軒中、中島式は4軒、他は座光寺原式であり、中島式は調査区域の南側に偏在しており、今次調査では用地の南端近くに発見されている。これらからみて中島式集落は現在宅地化された南側に中心をもって展開されているものと思われる。弥生後期の大集落であって方形周溝墓の発見はないが、他の遺跡例からみて段丘南縁近くに構築されているものと予想される。

佐久市西八日町遺跡

佐久市教育委員会 小山 岳 夫

本遺跡は開発会社の宅地造成事業に伴い、昭和58年5月6日から同9月1日にかけて行われた、長野県佐久市岩村田『西八日町遺跡』の発掘調査の概要である。

遺跡は千曲川の支流である湯川流域の田切り地形の台地の縁部にあり、標高は700mである。国道141号線を挟んで東方に連なる上の城遺跡（昭和48年調査）とともに上の城遺跡群を形成し、古墳～平安時代を中心とする大集落を展開している。更に西方には一本柳、北西久保遺跡と弥生～平安時代の大集落が連なり、佐久平の古代史上重要な位置を占めた地点であったと考えられる。

検出された遺構・遺物—約5,000㎡の調査対象地の全面にわたり、弥生時代7軒、古墳時代48軒、奈良時代15軒、平安時代74軒の住居址の他、掘立柱建物址、溝状遺構、竪穴状遺構などが激しく重複して検出された。

弥生時代—中期後半6軒、後期1軒の住居址はすべて遺跡の西方に偏在する。一本柳遺跡から連なる弥生集落の東限を把握できた意義は大きい。

古墳～奈良・平安時代—古墳時代の住居址はすべて後期に比定され、一辺7mを超えるものもこの時期に集約される。カマドはおおむね北壁中央に構築されるが稀に東壁に築かれる例もある。住居No.6は1辺9m

35cmを測る本遺跡中最大の住居址で、4本の各支柱穴に鍵状に掘り込まれた間仕切状の溝も検出された。

奈良～平安時代の住居址は、古墳時代に比べ小型化し、時代が新しくなる程、顕著となる。カマドはほとんど北壁中央にあり、稀に西壁に存する。これが最も新しい時期の住居址になると東南隅の壁に構築されるようになる。同種の住居址は15軒検出されており、掘立柱建物址への変遷を考える上でも興味深い。

遺物では奈良時代の住居No.60から検出された、翡翠製の磨製石斧、平安時代の住居No.134から検出された木製の櫛が特に注目される。この他、当遺跡では鉄器の遺存率が高く、鉄鍬などの武具を中心として多量の



製品が出土している。土器も土師器、須恵器、灰釉、緑釉陶器等豊富で、重複関係を遡ることのみでも古墳～平安時代の土器編年の大綱を呈示できる。灰釉陶器はほとんどが東濃系であるが猿投系の混存も同一住居址内において認められる。

以上、当遺跡は調査が終了したばかりであるが、前述した課題を慎重に検討し、一刻も早く正確な報告を行いたいと考えている。



埋文施設紹介 (4)



観光ブームの木曽谷では、街道の各宿場に町村立や個人の小さな資料館が30近くもある。それぞれ内容に特色をもっているが、考古学資料を展示してある施設は少なく、その展示資料も多くない。

賛川関所木曽考古館 賛川駅の南、賛川宿に入る手前に賛川関所が復元されている。この地下1階が考古館となっている。村内には、確認された遺跡が12ヶ所程あるが、松本県ヶ丘高校風土研究部が調査した「やな場遺跡」の資料が中心に展示されている。縄文時代中期後半の土器・石器、平安時代の遺物がある。



賛川関所木曽考古館全景

所在地 木曽郡檜川村賛川

交通 賛川駅下車

宣公郷土館 宮ノ越駅をおりて木曽川を渡った所に徳音寺があり、その境内にある。日義村芝垣外遺跡の縄文時代晩期玉類、上の原遺跡の縄文時代中期土器、お玉の森遺跡の灰釉陶器が展示されている。

所在地 木曽郡日義村124

交通 宮ノ越駅下車

木曽郷土館 木曽福島町の中心部、木曽教育会館と並んである。教育会郷土調査部の先生方が調査、採集した郡内の遺物が収蔵展示されている。小馬背・西又生物研究所・上の原・お玉の森・巴の松・太田垣外・青野原等の遺跡からの出土遺物を中心に、旧石器時代から平安時代までの遺物があり、木曽郡ではもっとも

資料がまとまっている。

所在地 木曽郡木曽福島町5823

交通 木曽福島駅下車



木曽郷土館入口

福島関所資料館 木曽福島町関所にあつて、国史跡福島関跡に隣接してある。関所跡は整備のために発掘調査し、その出土遺物が展示され、関跡は史跡公園として見事に整備されている。

所在地 木曽福島町5031の1

交通 木曽福島駅下車

開田村郷土館 開田村末川にあつて、木曽馬や麻織物資料の展示にまじつて、村内出土遺物がある。

所在地 木曽郡開田村末川

交通 木曽福島駅下車、おんたけ交通開田高原西野行開田村郷土館前下車

上松町民俗資料館 県立公園「寝覚の床」内にある。山林関係の資料が多いが、町内から出土した遺物も展示されている。

所在地 木曽郡上松町

交通 上松駅下車

のぞきど高原学習館 大桑村のぞきど高原にある。相当に山奥に入った高原内で発見された遺跡を発掘調査し、縄文時代の早期から晩期の遺物を得ている。それらが展示されている。

所在地 木曽郡大桑村のぞきど高原

交通 野尻駅下車 10名以上は役場に連絡すれば、送迎バスを用意してくれる。

上記以外に資料館はできていないが、日義村教育委員会(上の原・お玉の森遺跡)、三岳村教育委員会(若宮遺跡ほか村内資料)、王滝村教育委員会(里宮・崩越遺跡)、南木曽町教育委員会(戸場遺跡ほか町内資料)で貴重な資料を保管している。また、三岳村若宮遺跡、王滝村里宮遺跡では縄文時代中期の住居が復元され、木曽の特色をというわけか、前者は檜皮葺で、後者は檜柱でつくられている。(神村 透)

小県郡和田村における遺跡保存の現状と問題点

和田村教育委員会 上 原 茂

和田村には、和田峠を中心とする男女倉遺跡（旧石器）をはじめ村内に17箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認されていたが、昭和57年7月個人住宅建設に起因する遺跡包蔵地確認調査により、新たに遺跡（町東側遺跡）が発見された。11月25日から12月7日までの13日間、村単による発掘調査を地元研究者、大学生等の応援を受けて急ぎ実施し、記録保存をした。



町東側遺跡吊手土器の出土状況

遺跡の保存は、遺跡が土地に付随している性格上、土地開発との間には避けてとおることのできない問題があることは当然のことであり、遺跡は学術研究の資料として保存されなければならない必要がある。しかし学術的にはそうであっても、個人の権利、開発優先的な風潮などのなかにあつて、これだけの理由では遺跡保存の保護協議のなかで個人の合意を得ることは、なかなか困難である。学術研究のみを唱え、遺跡の保存を強調しても、多くの場合は共感を得ることは少ない。このことは和田村だけのことだろうか。

今後は遺跡のもつ学術的な成果を、村（地域）の歴史のなかに位置づけながら、いろいろな問題に結合させていくことに遺跡保存の大きな意味があるように反省させられる。

過去の村内の種々の開発事業も相互に関連して成り立っている、それは、道路の建設は宅地造成に比べ、確かに面としての広がりをもたない一本の線的な開発ではあったが、やがて、宅地開発を誘発するなど、面的開発の大きな要因ともなっている。また、そこには将来再び道路の必要さを生じてくるというように、地域開発事業に対する遺跡保護体制の充実強化が村内の遺跡壊滅を防ぐ今後の検討課題でもある。

遺跡の保存は、遺跡の所在を明確にするための分布調査が基本となることを過去の発掘調査で痛感している。遺跡の所在地、種類、現状を地図の上にあらわすこと、このことは「周知の遺跡」として事業主体者側に対応できる基礎的な手段であると思う。それだけに遺跡についての情報が、地図上に示された形で、つねに村民の手近なところにあることが遺跡保存の基本的要件であるといえる。和田村にはその所在を周知徹底させるための方策がとられているとはいいがたい。今後これらの欠けているところを補いながら再度、中・近世関係の遺跡をも含む分布調査により表示する努力をしていきたい。

遺跡の範囲、性格等の情報は村民に示す行政の責務がある。とくに遺跡の保存が、将来、社会と学問とのかわりの中で果たされるだけに、遺跡分布調査に対する充実化は早急の課題であると思われる。

小県郡和田村の概要

1. 村の概要

位置 長野県のほぼ中央、小県郡の南部に位置し、東は長門町、南は諏訪市、下諏訪町、西は松本市、北は武石村に隣接。

地形 東西15.6km、南北11.7km、周囲51.5kmの扇形（西から、北東に向って低下）

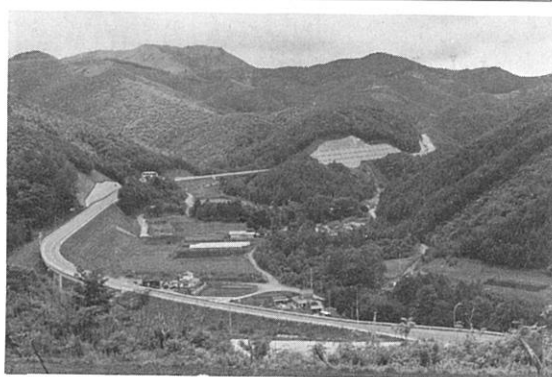
面積88.18k㎡、海拔660m～2,006mである。

人口 2,974人

おもな文化財〔村指定〕男女倉遺跡、和田神社、新田、八幡神社本殿、和田城主大井信定父子の墓、夜の池、一里塚

2. 事務局組織

教 育 長	教 育 次 長	（教育長職務代行）	学校教育係（1名）	―― 発掘調査
			社会教育係（1名）	
			社会体育係（1名）	



男女倉遺跡

調査報告書の紹介

◇和手 上田市和手遺跡緊急発掘調査報告書 昭和58年3月31日発行 上田市教育委員会刊（B5判 横組 本文32頁 図版5頁）

◇東之手・西之手遺跡 創置の信濃国府跡推定地第1次発掘調査概報 昭和58年3月31日発行 上田市教育委員会刊（B5判 横組 本文34頁 図版12頁）

◇下大豆塚1号・2号古墳 長野県佐久市長土呂下大豆塚1号・2号古墳調査報告書 昭和58年3月発行 佐久市教育委員会刊（B5判 横組 本文22頁 図版8頁）

◇真光寺第1号古墳 蓼科山北麓における後期古墳の調査 昭和58年3月20日発行 望月町教育委員会刊（B5判 横組 本文31頁 図版11頁）

◇浅川扇状地遺跡群迎田遺跡 川田条里的遺構・石川条里的遺構 昭和58年3月25日発行 長野市教育委員会・長野市遺跡調査会刊（B5判 横組 本文59頁 図版14頁）

◇横沢遺跡群I 横沢地区は場整備に伴う発掘調査報告書 昭和58年3月30日発行 更埴市教育委員会刊（B5判 横組 本文23頁 図版21頁）

◇松本市新村秋葉原遺跡 緊急発掘調査報告書 昭和58年3月31日発行 長野県中信土地改良事務所・松本市教育委員会刊（B5判 横組 本文169頁 図版52頁）

◇松本市寿小赤遺跡 緊急発掘調査報告書 昭和58年3月31日発行 長野県中信土地改良事務所・松本市教育委員会刊（B5判 横組 本文66頁 図版19頁）

◇推定信濃国府跡 第1次調査報告書 昭和58年3月31日発行 松本市教育委員会刊（B5判 横組 本文104頁 図版4頁）

◇史跡平出遺跡 昭和57年度発掘調査報告書 昭和58年3月25日発行 塩尻市教育委員会刊（B5判 横組 本文42頁 図版4頁）

◇吉田向井 長野県塩尻市吉田向井遺跡発掘調査報告書 昭和58年3月20日発行 塩尻市教育委員会刊（B5判 横組 本文153頁 図版6頁）

◇堀ノ内遺跡・北唐沢遺跡 県営圃場整備事業東筑摩郡山形村竹田地区埋蔵文化財緊急発掘調査 昭和58年3月20日発行 中信土地改良事務所・山形村教育委員会刊（B5判 横組 本文25頁 図版14頁）

◇構井・阿弥陀堂遺跡 茅野有料道路内埋蔵文化財発掘調査報告書 昭和58年3月31日発行 茅野市教育委員会刊（B5判 横組 本文153頁 図版41頁）

◇諏訪市の遺跡 昭和58年3月30日発行 諏訪市教育

委員会刊（98頁 うち分布図21頁）

◇星ヶ塔のりこし遺跡 発掘調査報告書 昭和58年3月31日発行 下諏訪町教育委員会刊（本文47頁）

◇上の林遺跡（第3次）長野県上伊那郡箕輪町緊急発掘調査報告書 昭和58年3月31日発行 箕輪町教育委員会刊（B5判 横組 本文50頁 図版23頁）

◇天王塚古墳 長野県上伊那郡箕輪町緊急発掘調査報告書 昭和58年3月31日発行 箕輪町教育委員会刊（B5判 横組 本文26頁 図版16頁）

◇箕輪遺跡 調査第Ⅲ集 昭和58年3月31日発行 箕輪町教育委員会刊（B5判 横組 本文30頁 図版27頁）

◇鳥井田・横吹・城の腰・安岡城遺跡 西部開発事業（畑地帯総合土地改良事業）緊急発掘調査報告 昭和58年3月9日発行 伊那市教育委員会・南信土地改良事務所刊（B5判 横組 本文243頁 図版76頁）

◇船窪・城畑・城平・宮林・山の根遺跡 国営伊那西部農業水利事業緊急発掘調査報告 昭和58年3月17日発行 伊那市教育委員会・関東農政局伊那西部農業水利事業所刊（B5判 横組 本文177頁 図版30頁）

◇上ノ原遺跡 長野県上伊那郡中川村大字片桐上ノ原緊急発掘調査報告書 昭和58年3月発行 南信土地改良事務所・中川村教育委員会刊（本文89頁 図版16頁）

◇原田遺跡 長野県上伊那郡中川村大字片桐・原田緊急発掘調査報告書 昭和58年3月発行 南信土地改良事務所・中川村教育委員会刊（本文12頁 図版2頁）

◇酒屋前遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告 昭和58年3月発行 飯田市教育委員会刊（B5判 横組 本文23頁 図版12頁）

◇知久平遺跡群 昭和56年度 下久堅地区畑灌水工事埋蔵文化財立合調査報告書 長野県南信土地改良事務所・飯田市教育委員会刊（B5判 横組 本文27頁 図版4頁）

◇鳥屋平 飯田西部中学（仮称）建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 昭和58年3月発行 飯田市教育委員会刊（B5判 横組 本文18頁 図版10頁）

◇天竜峡・東原遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書 昭和58年3月発行 産業ジュニア・リーガー会議・飯田市教育委員会刊（B5判 横組 本文13頁 図版8頁）

◇日影平 縄文時代後・晩期、中世を中心とした 昭和58年3月発行 根羽村教育委員会刊（B5判 横組 本文41頁 図版43頁）

文化課より

「長野県の中世城館跡」の頒布について

長野県教育委員会が昭和54年～57年にかけて実施した中世城館跡分布調査の報告書が、この度、社団法人長野県文化財保護協会の手により増刷されました。

頒布価格等は下記のとおりですので、御希望の方はハガキで公用・私用の別を明記して申し込みください。

〔頒布価格〕5,500円（送料共）

〔申込先〕〒380 長野市大字南長野幅下692-2

長野県教育委員会文化課内長野県文化財保護協会
〔振替口座〕長野4-17046 (社)長野県文化財保護協会

埋文センター日誌

- 4月1日 調査研究員6名、事務職員1名増の計19名で58年度の活動がはじまる
- 4日 塩尻市に松塩筑調査事務所オープンする
河西清光調査第二部長が勤務する
- 14日 調整会議、今年度の調査について協議する
- 20日 中島A・膳棚B遺跡の調査開始
- 5月10日 柳海途遺跡の調査開始
- 6月1日 理事会、57年度の事業報告と決算報告
- 9・10日 北九州市で全国埋文協総会が開かれる
- 24日 石川県埋文センターの職員2名が視察に
来所
- 7月14日 信州大学酒井潤一先生から中島A遺跡の地
質指導
- 18-27日 断層調査グループが中島A遺跡で検出され
た断層を調査する
- 19日 調整会議、発掘調査の現況と用買の状況等
について打合せ
- 22日 松本市で中部・関東ブロック埋文連絡協議
会が開かれる、調査体制等について協議
- 8月1日 沼津歴史民俗資料館瀬川祐一郎氏から膳棚
B遺跡発掘の絡条体圧痕文土器の指導
- 9日 長野県教育委員会の丸林一富(高校)、近藤
正信(義務)両指導主事が現地視察
- 10日 長野県教育委員会木鋪教育次長、西川総務
課長が現地視察
- 22日 千葉県文化財センターの職員2名が視察に
来所
- 9月5日 西林A遺跡の調査開始
- 6日 奈良国立文化財研究所光谷拓実先生から中
島A遺跡出土の木材についての指導
- 9日 東京都教育庁文化課職員7名が視察に来所
- 10月1日 人事異動(別掲)
- 4日 膳棚B遺跡の調査終了
岡谷・塩尻市内の59年度調査予定地の現地
調査を日本道路公団、長野県教育委員会、
岡谷市教育委員会、塩尻市教育委員会、長

長野県史(考古部門)だより

○主要遺跡篇(中南信)いよいよ発刊

北東信篇につづく中南信篇がようやく完成します。収録遺跡数は約200箇所に及び、北東信の158遺跡を大幅に上廻り、頁数も1,300頁となりました。諸般の事情で割愛した遺跡もありますが、それでもこれで県下約360箇所の主要な遺跡がほぼ網羅されたわけです。綴込みに主要遺跡の20万分の1の分布図を付してあります。頒価は未定。

○遺構・遺物篇(1冊1,000頁)大綱まとまる

下記の項目にわたる集成や分布図作成、解説を中心に編集します。(昭和60年刊行予定) I 長野県考古学史 II 時代と編年(土器・石器の編年) III 生産と生活の用具、IV 住居と集落 V 信仰と葬制 VI 原始・古代のもの動き VII 自然環境と自然遺物。他県にはみられないユニークな編集だけに、一面むずかしさもあります。

○通史(原始・古代I)(63年刊行予定)

本年度いよいよ項目(章・節・項)を決定し、執筆の準備に入ります。

野県埋蔵文化財センターの関係者により実施した

17日 西林A遺跡の調査終了

人事異動(10月1日付)

○埋文センター常務理事

三村 忠幸(埋文センター常務理事兼事務局長)

○埋文センター事務局長

山崎 昭三(土木部砂防課から)

○埋文センター庶務部長

堀内 計人(松本空港管理事務所から)

○県教委文化課課付

丹羽 長雄(埋文センター庶務部長)

埋文センター管理棟建設へ 施設整備事業の一環として管理棟を建設することとなり、松塩筑調査事務所敷地内に10月20日着工しました。事務室、遺物整理室、同実測室、写場等の各室で延585㎡のプレハブ2階建て、12月上旬完成予定です。

あとがき 台風10号による集中豪雨により、県内に1千5百億円を超す大きな被害を残しました。災害にあわれた皆様に心よりお見舞いを申しあげます。今回の埋文施設紹介は「木曾谷」特集を企画し、その施設の写真などを各方面に依頼したのですが、開田村は道路が寸断され、撮影もままならず、また木曾教育会から送られてきた封筒の宛名は雨で滲み、豪雨のすごさが窺えます。一日も早く復旧されることをお祈り致します。さて、本号は、県下の市町村教委から発刊された報告書の一覧を掲載しましたが、発掘に、報告書作成にと努力されていることに頭が下がります。健康に留意してご活躍のほどを。